

あいち農産物生産流通レポート

2022年3月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・「ミニトマトの魅力発見と漬け込み体験」を動画配信しました	(園芸農産課) 1
・「第17回食育推進全国大会inあいち」を開催します！	(食育消費流通課) 2
◎ 地域トピックス	
・ JA西三河きゅうり部会におけるスマート農業技術を活用した栽培技術高度化の取組について	(西三河農林水産事務所) 3
◎ 東日本情報	
・ 洋菜品質検討会の開催	(東京事務所) 5
◎ フラワーページ	
・ フラワーバレンタインプロモーション2022について	(園芸農産課) 7 (東京事務所)
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	11
・ 名古屋・東京市場における青果物の3月の見通し	12
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の3月の見通し(県内市場)	24

※今月「西日本情報」はありません

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

「ミニトマトの魅力発見と漬け込み体験」を動画配信しました

園芸農産課

愛知県は野菜出荷額、漬物出荷額ともに全国上位となっていますが、県民一人当たりの野菜摂取量は全国の中でも非常に低いレベルにあります。そこで、県では県民に愛知の野菜に興味をもってもらうため、生産量全国第3位（2019年）を誇るミニトマトに着目し、「ミニトマトの魅力発見と漬け込み体験」事業を実施しました。

1 「ミニトマトの魅力発見と漬け込み体験」事業の概要

当事業は農林水産省の「食料産業・6次産業交付金」を活用し、愛知県食育推進ボランティア等を対象に参加者を募集したところ、25名の応募がありました。当初は会場での体験型講習会を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み、講習会を動画配信することとしました。参加者には、資料と共に講習会動画を視聴してもらい、愛知のミニトマトの魅力と漬物についてPRしました。

2 講習会の内容

ミニトマト農家（渥美半島とまとランド）の小川浩康氏と漬物業者（株式会社丸越）の柴田哲典氏を招いて講習会を行いました。

小川氏からは、ミニトマトの栄養素や、栽培方法の特徴等、ミニトマトに関する様々なテーマについて講義がありました。ミニトマトに含まれる栄養素の一つであるリコピンは加熱することにより吸収率が上がり、うま味成分も凝縮されるということや、新鮮なミニトマトの選び方等が説明されました。

また、柴田氏からは、漬物の基本的な作り方や発酵の仕組み、効能等が丁寧に説明されました。家庭で簡単に作れるミニトマトを使った漬物レシピも3種類ほど紹介され、そのうちの一つ、ミニトマトの甘酒ピクルスの作り方はデモンストレーションもされました。



小川浩康氏

ミニトマトについて



発表資料の一部



柴田哲典氏

漬物について



デモンストレーション

体験後に実施したアンケートでは、「もっと野菜を食べたい」、「発酵食品の力は凄いと思う」などの意見があり、参加者に愛知の野菜と漬物の魅力をPRすることができました。

さらに、当事業では愛知の野菜と漬物を紹介したリーフレットを作成、配布し、また、当講習会のショート動画を動画サイトにアップすることで、今後も広く県民に向けてPRに努めていきます。

「第17回食育推進全国大会 in あいち」を開催します！

食育消費流通課

愛知県では、県民の皆さんが健全な食生活を実践できるよう、第4次愛知県食育推進計画「あいち食育いきいきプラン2025」（2021年3月作成）に基づき、食育を推進しています。

愛知県で2020年6月に開催する予定であった「第15回食育推進全国大会」は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりましたが、大会の準備を通して培った食育関係者の連携を一層強化する機会とするとともに、県民が「食」に関する深い学びや新たな発見ができる場とするため、2022年6月に農林水産省との共催により、「第17回食育推進全国大会」を愛知県で開催します。

1 食育推進全国大会とは

食育推進全国大会は、食育推進運動を重点的かつ効果的に実施する6月の「食育月間」における全国規模の中核的な行事で、イベントや展示を通して食育の実践を働きかけています。2006年の第1回大会（大阪府）以降、毎年全国各地で開催されていて、東海地域では今回が初の開催となります。

2 大会概要

- ◆日程：2022年6月18日(土)、19日(日)（2日間）
- ◆会場：Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場・常滑市） 展示ホールA、会議室
- ◆主催：農林水産省、愛知県、第17回食育推進全国大会愛知県実行委員会
- ◆内容：食育活動表彰式、セミナー・シンポジウム、学生レシピコンテスト、キャラクターステージショー、県農林水産業のPR、調理イベント、食育に関するブース展示、県産農林水産物や県ゆかりの料理等の飲食・販売等
- ◆HP：<https://www.syokuikutaikai17th-aichi.jp>
- ◆問合せ：第17回食育推進全国大会愛知県実行委員会事務局
（愛知県農業水産局農政部 食育消費流通課内）
Tel:052-954-6396（ダイヤルイン） Fax:052-954-6940



詳細は、大会公式ホームページをご覧ください。



“SHIN化”する「いきいき食育」あいちから
～健康な体、豊かな心、環境に優しい暮らし～

J A西三河きゅうり部会におけるスマート農業技術を活用した栽培技術高度化の取組について

西三河農林水産事務所

1 施設園芸産地における現状と課題

愛知県では、既存の温室で ICT などの先端技術を活用した環境制御を行う「あいち型植物工場」を推進するため、環境モニタリング装置の導入等を支援する「あいち型植物工場推進事業」を平成 28 年度から 30 年度に実施しました。

この結果、環境モニタリング装置は県内施設園芸産地に一定数普及し、施設内の環境モニタリング結果に基づいた研究活動の重要性が広く認識されました。

一方で、研究活動の進展に伴い、モニタリングによる施設内環境の改善だけでは増収に結びつかない事例もあることが解ってきました。

2 J A西三河きゅうり部会の取組（令和 2 年度まで）

J A西三河きゅうり部会では、あいち型植物工場推進事業の取組をさらに発展させるため、令和元年度から 2 年度までスマート農業技術の開発・実証プロジェクト「ICT に基づく養液栽培から販売による施設キュウリのデータ駆動経営一貫体系の実証」に取り組み、環境モニタリングの高度化、統合環境制御装置の制御プログラムの改良、収量予測モデルの作成等により単位収量の向上、労働時間の削減を実現しました。

3 データ駆動型農業の実践体制づくり支援事業の実施

令和 2 年度までの取組は部会内のトップレベルの生産者で実証した結果であり、この成果を活用して産地内の生産者だけでなく、県内の施設園芸産地でも実証できる技術指針とするため、令和 3 年度から 5 年度までの計画で、環境モニタリングデータを活用した「データ駆動型農業の実践体制づくり支援事業」に取り組んでいます（図 1、2）。

(1) 令和 3 年度に実施した 4 つの取組

①養液土耕栽培への養液技術データの活用

・キュウリの給水量や給肥量を養液栽培から推定し、養液土耕栽培の灌水、施肥管理を最適化する（図 3）。

②光合成・蒸散量データの収集、分析による適切なハウス内環境の確認

・光合成、蒸散量データを分析し、環境制御下における植物の応答を可視化し、ハウス内環境を最適化する。

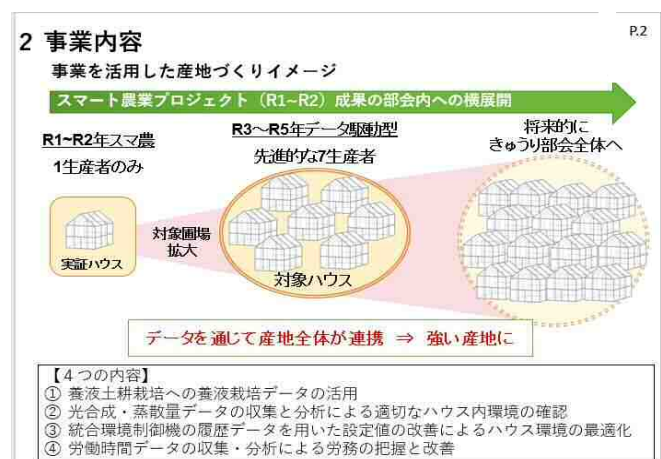


図1 事業を活用した産地づくりイメージ

③統合環境制御装置の履歴データ分析
と設定値の改善によるハウス環境の
最適化（図4）

- ・統合環境制御装置の履歴データを
分析し、設定値を改善する。
- ・植物にとって不適な条件を洗い出
し、より適切な環境制御の実現を目指
す。

④労働時間データの収集・分析による労
務の把握・改善

- ・作業データの収集を行い、労務管理
の改善に取り組む。

(2) 令和4年度以降の取組

前年度の結果を踏まえ、引き続き、養
液土耕栽培への養液技術データの活用、
光合成・蒸散量データの収集と分析によ
る適切なハウス内環境の確認等を実施
することにより、栽培技術、環境制御技
術、労務管理技術の高度化に取り組みま
す。

4 期待される効果

J A西三河きゅうり部会においては、環
境制御技術がさらに高度化するとともに、
栽培ステージに合わせた管理作業が実現
し、より効率的な栽培管理が可能となり
ます。

さらに、この取組をモデルとし、環境モ
ニタリングデータを活用したデータ駆動型
農業が県内に普及することで、本県施設園
芸産地の生産性・収益性の向上が期待され
ます。



図2 部会内での活発な勉強会

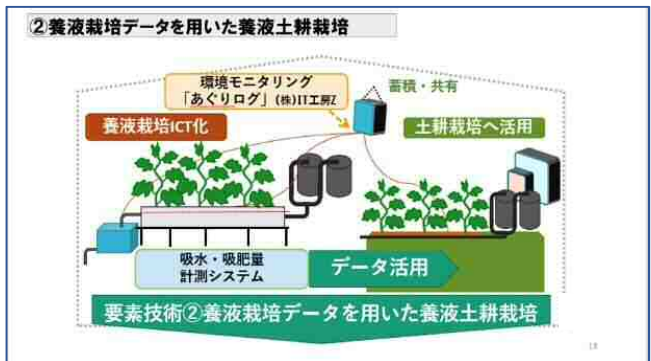


図3 養液栽培データを用いた養液土耕栽培



図4 きゅうり栽培に適した統合環境制御
機へのプログラム改良

洋菜品質検討会の開催

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

京浜市場愛知県野菜連絡会洋菜研究会は、2022年2月3日（木）に静岡県京浜地区野菜流通協議会洋菜部会と合同で洋菜の品質検討会を開催しました。

1 感染対策を徹底しての開催

静岡・愛知合同洋菜品質検討会は、品質向上を目的として、例年1月～2月に、市場担当者である卸売会社の10数名のほか各産地の生産者も参加して開催されていました。2021年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための緊急事態宣言下であり、卸売会社は会場である大田市場内に所在する2社の参加とし、生産者は不参加で開催されました。2022年はまん延防止等重点措置の適用期間内であったことから、前年同様に参加者を絞ったうえ、短時間となるよう検討する産地数を必要最小限に減らすなどの工夫もなされました。換気や検温、消毒といった感染対策が徹底された中で、セルリー、ブロッコリー、カリフラワー、サニーレタス、グリーンリーフ、レタスの各品目について、卸売会社の担当者により品質検討されました。



密にならないよう配慮された会場

2 品質検討結果

品質検討は、ボリューム感や揃いといった品目ごとの所定の項目についての5段階評価のほか、病害虫被害株・玉の混入個数が確認されました。

(1) セルリー

本県2産地含め3県4産地について検討されました。

本県の1産地は、ボリューム感の項目で最も高い評価を得るなど今回の中では最も品質が良く、箱への収まりが良く葉の折れが少ないと高評価を受けました。もう1産地については、歩留まりは良いが縦割れがあり、ほ場でホウ素欠乏が起きている心配があるとされました。

また、他産地では外葉がついたままの株がみられ、「外葉を外したうえでの規格の徹底」が求められました。



外葉がついたままの株

(2) ブロッコリー

本県2産地含め4県5産地について検討されました。

本県の2産地とも高い評価を受けましたが、うち1産地では下段に押されて崩れた花蕾がみられました。「商品として並んだときに花蕾の崩れは気になるため、もったいない。」とされ、議論の結果、10玉サイズのもので12玉サイズとして入れられている

ことが原因と考えられたため、「適正サイズで出荷するように。」との助言がありました。また、「(本県のような) 段ボールで出荷している産地は、今後暖かくなると早く傷むようになりクレームの時期となる。」と注意喚起がありました。

(3) カリフラワー

本県1産地含め3県3産地について検討されました。

「いずれの産地も大きな問題点はないものの、品種の違いによると推測されるが、比較すると他県産の白さが際立つ」との評価でした。

カリフラワーは「量販店が他店との差別化で売りたいがる商品であるが、白いものが求められる。」との注意がありました。

(4) サニーレタス

本県3産地含め4県6産地について検討されました。

産地による良し悪しははっきりしており、本県の2産地は、株揃いや着色など総じて評価が高かったものの、もう1産地は、「黄変があって全体的にしなびており、鮮度感が感じられない」とされました。他県産で評価の高い産地はありませんでした。

サニーレタスに求められることとして、「大小のばらつきをなくすとともに、色に注意し、黄変や枯葉がないように。」との要望がありました。



サニーレタスの検討の様子

(5) グリーンリーフ

本県2産地含め4県5産地について検討されました。

サニーレタス同様に産地によって良し悪しに差があり、本県の1産地は、いずれの項目も高い評価を受けた一方、もう1産地は黄変があって葉先の状態が良くないとの評価でした。なお、他県産は本県産より株揃いや切り口の状態について厳しい評価を受けていました。

(6) レタス

本県1産地含め4県6産地について検討されました。

絶対量不足による市場の要請によって若穫りしており、全体的に低温・干ばつの影響で巻きが甘く、軽めのものが多いとのことでした。その中で、本県産は結球が締まりすぎているものがあるものの揃いが良く、最も高い評価を受けました。

他県産では虫の混入があり、「異物混入になる。」と注意がありました。また、「表面凍結すると、剥離し、とろけにつながるおそれがあることから、凍った葉はしっかり取り除き、等級を落として出荷して欲しい。」と要望がありました。

市場関係者から「後続の新興産地が出てきているが、京浜市場の洋菜を牽引していくのは静岡・愛知である。そのために、しっかりした品質のものを出してもらいたい。」との言葉がありました。

2年続けて生産者不在での品質検討会となりましたが、生産者自身が自分たちの出荷物の位置づけを認識しながら、品質の高いものを揃えて出荷することが求められます。

フラワーバレンタインプロモーション2022について

園芸農産課
東京事務所行政課

バレンタインデーは、日本では「チョコレートで愛や感謝を伝える日」として定着していますが、世界の多くの国では、男女がお互いに愛や感謝を伝えあう日として、メッセージカードとあわせて、花を贈ることが最もポピュラーとなっています。

そこで、日本においてもバレンタインデーに大切な人へ花を贈る文化が定着することを目指し、フラワーバレンタイン推進委員会（現・（一社）花の国日本協議会）が、2011年度から全国統一キャンペーンとして「フラワーバレンタイン」を推進しており、2022年は各地で様々な取組が行われました。

1 愛知県の取組

花の産出額が59年連続日本一の愛知県では、「フラワーバレンタイン」を新たな県産花きの需要拡大の機会と捉えて、その普及とあいちの花のPRを目的に、2011年度から花き関係団体等と「フラワーバレンタインあいち実行委員会」を組織し、様々な取組を行っています。本年度も県内及び東京都内で県産花きを用いたプロモーションを展開しました。

(1) 愛知県内でのプロモーション

2022年2月5日(土)、6日(日)に、ミュンプラット神宮前(名古屋市熱田区)において、生花をふんだんに使用したフォトスポットの展示やバレンタインにおすすめのフラワーギフトの販売の他、館内で1,500円以上買い物をされたお客様には、あいちの花のプレゼントをしました。



フォトスポット



ギフトショップ



あいちの花プレゼント

5日(土)には、フォトスポット前にて、セルフ撮影会を実施しました。参加者がモニターを見ながら自由にシャッターを切って撮影ができるもので、カップルやご夫婦、家族連れがそれぞれ楽しみながら撮影を行っていました。6日(日)には、「花男子プロジェクト」による花贈りパフォーマンスを実施し、会場から募集したペアに花贈りを体験していただきました。また、大村知事も登場し、当日誕生日だった一般女性へ花を贈り、あいちの花とフラワーバレンタインのプロモーションは大いに盛り上がりました。



セルフ撮影会



知事から一般客への花贈り

そのほかにも、フラワーパーク江南や mozo ワンダーシティでコラボイベントが開催されるなど「フラワーバレンタイン」の普及・定着を促しました。

(2) 東京都内でのプロモーション

〈渋谷パルコ〉

2月11日(金)に渋谷パルコの9階 GAKU において、(一社)花の国日本協議会と(一社)花いけジャパンプロジェクト、フラワーバレンタインあいち実行委員会が共同で愛知県産の花を使ったアレンジメントの体験ワークショップを実施しました。参加者はバラ、カーネーション、アルストロメリアなどたくさんの種類の中から、贈りたい相手のことを考えながら好きな花を選び、スタッフのアドバイスを受けて花束を作成しました。高校生など若い方が多く参加し、順番待ちができるなど会場は非常に賑わっていました。

イベント中、田原のスプレーギク生産者とリモートでつなぎ、「花束を誰に渡しますか」といった参加者へのインタビューなどが行われました。生産者と直接話すことでアレンジメントに使用した花が愛知県産であることが周知されたほか、インタビューを通して花を贈る若者の気持ちを会場全体で共有することができました。

また、渋谷の街を一望することができる場所にフォトスポットが用意され、イベント参加者が好きな花を加えて完成させる大型のアレンジメントが展示されていました。



賑わっている会場の様子



アレンジメント用の花



インタビューの様子



フォトスポット

〈セルリアンタワー東急ホテル〉

「フラワーバレンタインステイプラン」として2月4日(金)から14日(月)まで、客室に1本ずつ「感謝」「誠実」「幸福」などの意味を込めた12本のバラ「ダズンローズ」や、スイートピーなどを飾るサービスが限定20室で提供されました。またロビーやレセプションカウンターなどに、愛知県産のバラやアルストロメリア、スイートピー等を使用したいけばな作家の州村 衛香(すむら えいこう)さんによるウェルカムフラワーが展示されました。

40階にあるレストランやバーでは2月11日(金)から14日(月)の予約者にバラがプレゼントされたほか、レストランのテーブルなど様々な場所で花が飾られていました。



ロビーの展示



レストランの展示

2 他県の取組

〈水戸駅ビルエクセル（茨城県）〉

2月5日(土)から14日(月)に、いばらき花プロジェクト*が水戸駅ビルの特設ブースでフラワーバレンタインの展示を行いました。いばらき花プロジェクトは2014年からフラワーバレンタインの企画を毎年開催しており、これまではミニコンサートや高校生による花いけパフォーマンスなどの企画も併せて実施していましたが、去年は新型コロナウイルス感染症の影響のため展示のみとなりました。本年は展示だけでなく、来場者からの要望に応える形で展示されたブーケと同じ物を特設サイトで購入できるようにする新たな試みも行われました。

花材は茨城県産が使用され、提供元の生産部会等の情報が掲示されている他、会場に設置されたモニターでは生産者の紹介動画が放送されており、茨城県産の花が強くPRされていました。



展示の様子



使用した花の提供元の紹介



生産者の紹介ビデオ



ビル外からもよく見える展示

※いばらき花プロジェクト：「日常に花を」をコンセプトに生産者、花市場、生花店が一体となって取り組んでいる団体

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下
 わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：ふき）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
3年実績	396	391 (99%)	293	289	徳島 (1%)
4年見通し	390	—	300	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>県内の主な産地は知多半島、稲沢市、あま市である。</p> <p>2月の冷え込みにより生育が遅れ気味で茎は細いものの、品質は良好である。3月に入り気温が上昇してくると、入荷量は徐々に増加し、例年通り2L中心の入荷となる見通し。</p> <p>入荷量は前年並で、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>			<p>愛知県は古くからふきの大産地であるが、生産者の高齢化により、栽培面積は年々減少しており、入荷量も微減が続いている。</p> <p>近年は、一般家庭で食べられる機会が減少しているものの、昔からふきを食べている消費者から一定の需要があるため、産地には栽培面積と入荷量の維持をお願いしたい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：ふき）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
3年実績	594	441 (74%)	367	377	群馬 (21%) 千葉 (2%) 山形 (1%)
4年見通し	510	—	420	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>全国的に栽培面積が減少傾向で、入荷量は毎年100t前後落ち続けている。</p> <p>今シーズンの愛知県産は、冷え込みのため生育が遅れ、入荷量が少なく高値の状態が続いた。2月20日頃から増量し、徐々に単価は下落するものの、3月中旬からタケノコと共に売り込まれ、需要のピークにあって上げ相場となる見込み。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>			<p>京浜市場における愛知県産は、ジェットパック（従来のラップ包装と比較しての簡易包装）に一本化されており、量販店中心の販売となっている中で、入荷量の維持をお願いしたい。</p> <p>また、抑制ふきから促成ふきのシーズンを通した安定入荷をお願いする。あわせて、有利販売のための出荷情報の共有化をお願いしたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の3月の見通し

名古屋市中央卸売市場

2月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜	29年	30,542	237	241	224	愛知	25%
	30年	27,777	287	285	294	北海道	20%
	元年	30,958	212	207	207	茨城	9%
	2年	33,713	194	194	190	鹿児島	8%
	3年	32,993	211	209	213	熊本	6%
	5ヵ年平均	31,197	226	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	4年見通し	29,600	238	—	—		
計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知と北海道を中心に茨城、鹿児島などから入荷する。葉菜類と根菜類は低温と干ばつの影響で入荷量が少なく、小玉傾向となる見通し。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>						
だいこん	29年	1,508	102	99	98	千葉	38%
	30年	1,823	124	176	114	鹿児島	25%
	元年	1,500	77	72	79	静岡	21%
	2年	1,512	85	77	78	愛知	9%
	3年	1,764	84	80	88	神奈川	4%
	5ヵ年平均	1,621	95	103	92	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	4年見通し	1,600	85	80	85	90	
計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>千葉、鹿児島、静岡を中心に入荷する。各産地の生育は順調で、安定した入荷見込み。静岡、徳島は中旬以降終盤に入り、減少傾向。千葉はトンネル作が始まり、下旬頃に出揃う見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並となる見込み。</p>						
にんじん	29年	1,787	167	156	167	徳島	61%
	30年	1,138	244	218	250	愛知	32%
	元年	1,756	118	112	131	鹿児島	4%
	2年	1,846	167	125	174	長崎	1%
	3年	1,965	210	207	218	熊本	1%
	5ヵ年平均	1,699	177	160	184	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	4年見通し	1,800	150	140	150	160	
計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>徳島、愛知主体の入荷となる。愛知は中旬までの入荷、徳島は上旬から入荷スタートとなる予想。順調な産地の切り替わりが見込まれる。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>						

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

2月28日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
野菜計	29年	127,734	261	253	263	266	千葉 15%	
	30年	130,737	259	286	243	245	茨城 15%	
	元年	123,182	230	227	228	235	愛知 10%	
	2年	124,375	244	228	235	263	北海道 10%	
	3年	121,378	238	240	236	240	神奈川 7%	
	5ヵ年平均	125,481	247	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	4年見通し	126,000	240	—	—	—		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>秋冬作から春作へと切り替わり、関東産地からの入荷が中心となる。2月は低温等の影響で数量が少なくなったが、気温上昇や降雨によって順調な生育となり、入荷は潤沢で相場上昇は厳しいか。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並となる見込み。</p>							
	だいこん	29年	12,181	94	94	87	98	千葉 56%
30年		12,250	116	169	105	82	神奈川 39%	
元年		9,739	76	76	70	84	福岡 2%	
2年		10,224	77	71	65	95	鹿児島 1%	
3年		10,009	77	74	77	79	青森 1%	
5ヵ年平均		10,881	89	100	82	88	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
4年見通し		10,500	85	90	85	80		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
<p>千葉、神奈川からの入荷がほとんどを占める。低温と干ばつの影響で、進んでいた生育が鈍化して遅れ気味になっていたものの、降雨と気温上昇で肥大が改善する。量を増やしていき、不足感はない見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>								
にんじん		29年	7,404	179	183	181	175	徳島 55%
	30年	6,034	197	179	203	212	千葉 24%	
	元年	7,566	107	103	113	103	鹿児島 5%	
	2年	6,436	175	153	175	188	北海道 3%	
	3年	6,636	210	210	219	202	台湾 2%	
	5ヵ年平均	6,815	171	164	176	173	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	4年見通し	6,700	140	130	150	140		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>徳島、千葉を中心に入荷する。主力の徳島は生育順調で、上旬は数量がまとまらないものの、中旬以降は本格化して量を増やしていく。終盤の千葉は量を減らしていき、肥大の鈍化で2L比率を減らすか。 入荷量は前年並となり、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

2月15日現在

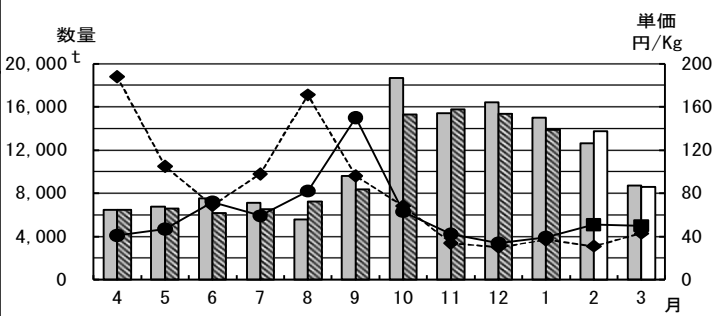
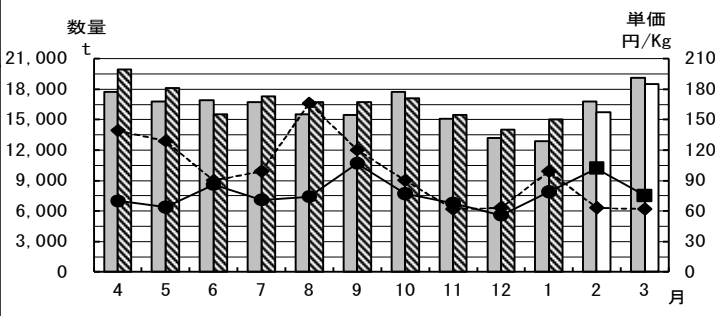
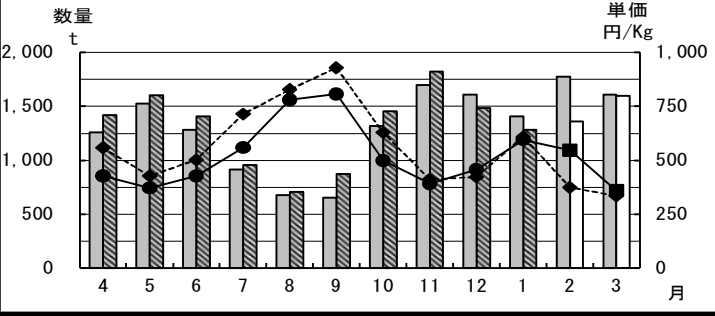
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)			
			上旬	中旬	下旬				
ほうき	29年	2,033	124	103	121	151	茨城	43%	
	30年	2,079	133	156	121	116	兵庫	17%	
	元年	2,045	64	51	67	73	長崎	17%	
	2年	2,308	116	101	104	135	熊本	11%	
	3年	2,258	63	56	65	70	三重	7%	
	5ヵ年平均	2,144	100	93	95	109	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	4年見通し	2,100	75	75	75				
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量				単価	
	茨城、兵庫、長崎などから入荷する。秋冬作の切り上がりが早く、九州産地の春物は少ない見通し。漬物・加工業務用については、引き続き荷動きが悪い。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。			t				円/Kg	
キヤベツ	29年	3,714	115	120	112	118	愛知	96%	
	30年	4,010	128	185	118	102	滋賀	1%	
	元年	4,535	54	57	48	59	兵庫	1%	
	2年	3,944	82	76	68	94	静岡	1%	
	3年	4,882	61	64	61	60	神奈川	1%	
	5ヵ年平均	4,217	86	98	79	84	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	4年見通し	4,500	70	70	70				
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量				単価	
	愛知主体の入荷となる。愛知は生育良好で順調な入荷見込み。生育は前進傾向で、春系の切り上がりが早い予想。新物は冷え込みにより入荷遅れる予想。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。			t				円/Kg	
ほうれんそう	29年	372	387	333	414	437	茨城	36%	
	30年	489	350	374	319	373	愛知	36%	
	元年	330	377	335	358	465	静岡	9%	
	2年	283	487	423	462	587	徳島	8%	
	3年	383	357	361	329	384	岐阜	7%	
	5ヵ年平均	371	385	364	369	437	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	4年見通し	380	350	330	350	380			
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量				単価	
	愛知、茨城を中心に入荷する。2月の冷え込みと降雪により、生育が遅く、品質も低下傾向。3月上～中旬は気温が上がり入荷量が増加してくる見込み。入荷量と価格はともに前年並となる見込み。			t				円/Kg	

東京都中央卸売市場

2月28日現在

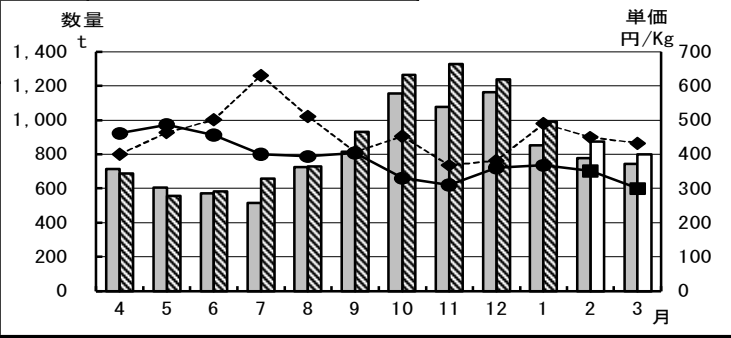
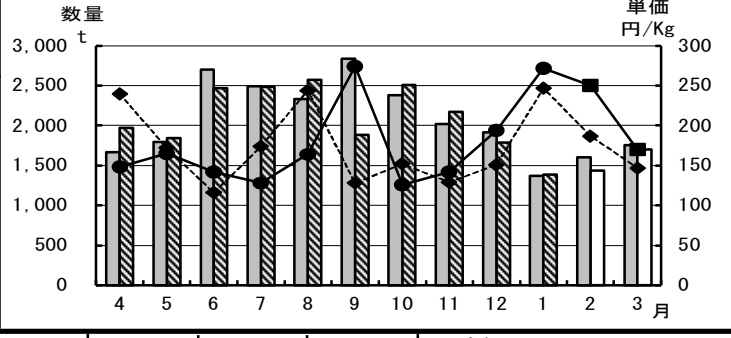
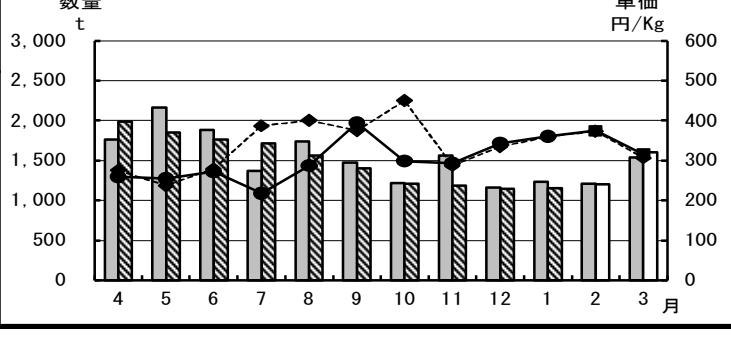
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ほういさ	29年	7,238	130	99	127	175	茨城 76%	
	30年	7,959	135	159	122	113	兵庫 10%	
	元年	7,420	46	38	42	60	群馬 6%	
	2年	8,079	103	80	90	144	長崎 5%	
	3年	8,733	43	33	41	58	宮崎 1%	
	5ヵ年平均	7,886	90	81	83	109	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	4年見通し	8,600	50	60	50	40		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に、兵庫などからの入荷となる。茨城は秋冬作が終盤を迎え春作へと切り替わるが、干ばつにより春作は遅れ気味。兵庫は終盤で下旬には大きく量を減らす。総じて出回りは潤沢な見込み。 入荷量は多かった前年並となり、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p> 					
	<p>茨城を中心に、兵庫などからの入荷となる。茨城は秋冬作が終盤を迎え春作へと切り替わるが、干ばつにより春作は遅れ気味。兵庫は終盤で下旬には大きく量を減らす。総じて出回りは潤沢な見込み。 入荷量は多かった前年並となり、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>							
	キャベツ	29年	17,423	124	119	124	128	愛知 50%
30年		17,665	139	183	124	118	神奈川 24%	
元年		19,841	62	64	57	66	千葉 23%	
2年		18,316	93	77	75	119	群馬 1%	
3年		19,099	62	62	64	61	静岡 1%	
5ヵ年平均		18,469	95	99	87	97	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
4年見通し		18,500	75	80	70	75		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、神奈川、千葉からの入荷がほとんどを占める。春系が中心となってくる。各産地の生育遅れは気温上昇と降雨により取り戻し増量していく。総じて出回りは順調で、相場上昇は期待薄。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p> 						
<p>愛知、神奈川、千葉からの入荷がほとんどを占める。春系が中心となってくる。各産地の生育遅れは気温上昇と降雨により取り戻し増量していく。総じて出回りは順調で、相場上昇は期待薄。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>								
ほうれんそう		29年	1,461	399	336	453	430	茨城 47%
	30年	1,722	389	382	368	421	群馬 27%	
	元年	1,495	357	307	362	418	埼玉 10%	
	2年	1,359	499	427	434	628	栃木 6%	
	3年	1,609	334	349	305	350	千葉 5%	
	5ヵ年平均	1,529	393	360	382	444	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	4年見通し	1,600	360	400	330	350		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、群馬など関東産地からの入荷が中心となる。主力の茨城を始め各産地の低温と干ばつによる生育停滞は、降雨や気温上昇により回復する。遅れを取り戻し、不足のない安定した入荷が続くと見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p> 					
	<p>茨城、群馬など関東産地からの入荷が中心となる。主力の茨城を始め各産地の低温と干ばつによる生育停滞は、降雨や気温上昇により回復する。遅れを取り戻し、不足のない安定した入荷が続くと見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

2月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	29年	741	411	416	406	412	大分 34%
	30年	766	424	484	413	374	静岡 15%
	元年	892	293	298	288	302	鳥取 14%
	2年	886	304	303	292	316	愛知 8%
	3年	744	433	473	417	409	長崎 4%
	5ヵ年平均	806	368	388	358	359	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	4年見通し	800	300	280	300	320	
ぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>大分、静岡、鳥取、愛知などの各産地から入荷する。静岡、鳥取の春ねぎは3月初旬頃から入荷見込み。愛知の越津ねぎは終盤に入り、長ねぎへと切り替わる予想。入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>						
し	29年	1,813	198	184	212	205	茨城 44%
	30年	2,086	182	231	154	162	兵庫 32%
	元年	1,661	178	166	168	205	静岡 5%
	2年	1,722	201	172	178	243	愛知 5%
	3年	1,754	147	147	146	149	熊本 5%
	5ヵ年平均	1,807	181	182	171	191	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	4年見通し	1,700	170	160	150	200	
ス	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>茨城、兵庫を中心に入荷する。茨城は上旬頃、兵庫は上～中旬頃入荷量が増加する見込み。静岡は中旬頃から入荷量が減少し、L中心の入荷となる見通し。入荷量は前年をやや下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>						
き	29年	1,450	268	280	284	250	愛知 56%
	30年	1,582	285	293	291	272	宮崎 16%
	元年	1,428	312	325	333	281	高知 12%
	2年	1,610	324	348	343	298	鹿児島 8%
	3年	1,539	307	318	319	290	群馬 7%
	5ヵ年平均	1,522	300	313	314	279	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	4年見通し	1,600	316	350	300	300	
り	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知を中心に宮崎、高知、鹿児島等の西南暖地から入荷する。各産地作柄良好で、上旬までは少なく推移し、中旬以降入荷量が増加する予想。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

2月28日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	29年	4,493	382	385	382	379	千葉 40%
	30年	4,562	420	508	407	344	茨城 16%
	元年	4,564	279	321	271	251	埼玉 15%
	2年	4,894	268	264	250	286	栃木 8%
	3年	3,983	486	537	473	447	福岡 5%
	5ヵ年平均	4,499	362	398	352	338	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	4年見通し	4,500	280	330	280	230	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉県、茨城、埼玉など関東産地からの入荷が中心となる。千葉等では低温や干ばつの影響で生育は停滞し、葉枯れがみられるも今後は回復を見込む。茨城は生育順調。肥大良好で出回り量は十分とみる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
し	29年	7,739	184	171	191	193	茨城 52%
	30年	9,702	168	221	136	147	静岡 11%
	元年	7,274	167	163	157	183	香川 7%
	2年	6,799	186	160	163	229	兵庫 7%
	3年	7,174	133	135	126	138	栃木 6%
	5ヵ年平均	7,738	168	173	154	176	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	4年見通し	7,300	170	180	140	190	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に、静岡などからの入荷となる。各産地とも低温、干ばつにより生育が遅れているものの降雨と気温上昇により遅れを取り戻す。加えて肥大も進み、量を増やすと見込む。 入荷量は前年並となり、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
きゅう	29年	6,556	283	291	292	273	群馬 25%
	30年	6,760	307	313	307	300	宮崎 20%
	元年	5,841	330	352	360	287	千葉 17%
	2年	6,266	352	386	365	324	埼玉 14%
	3年	6,137	311	325	313	297	茨城 12%
	5ヵ年平均	6,312	316	332	326	296	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	4年見通し	6,100	330	370	330	290	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、千葉などの関東産地と宮崎からの入荷が中心となる。各産地とも生育は概ね順調も、一部産地では低温と干ばつで遅れ気味。作型の切り変わる産地では増量していくが、燃油高の影響あり量は少なめか。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

2月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	29年	612	394	413	407	377	熊本 52%
	30年	617	415	435	425	393	愛知 44%
	元年	644	362	396	363	342	高知 4%
	2年	653	397	417	411	378	
	3年	591	365	378	369	355	
	5ヵ年平均	623	387	408	395	369	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	4年見通し	600	365	380	380	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知を中心に入荷する。作柄良好でL～M中心の入荷見込み。気温が上がり、日照時間が長くなることで入荷量は増加する予想。 入荷量と価格はともに前年並となる見込み。</p>					
ト マ ト	29年	1,274	339	339	341	341	熊本 56%
	30年	1,451	319	340	312	308	愛知 20%
	元年	1,245	356	347	360	364	岐阜 13%
	2年	1,082	394	368	406	407	三重 10%
	3年	1,223	305	304	311	306	高知 1%
	5ヵ年平均	1,255	341	339	343	342	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	4年見通し	1,110	360	380	360	340	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知、岐阜、三重を中心に入荷する。熊本は黄化葉巻病の被害により入荷量の大きな増量は見込めない。一部産地では植え替えにより入荷量が減少していることから、価格は強含みになる見通し。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	29年	421	739	783	758	709	熊本 69%
	30年	536	655	705	652	620	愛知 24%
	元年	472	723	727	731	715	和歌山 4%
	2年	420	778	791	809	753	宮崎 3%
	3年	565	628	654	634	604	
	5ヵ年平均	483	698	726	709	674	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	4年見通し	500	630	650	630	610	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知を中心に入荷する。中旬以降、気温上昇に伴って入荷量は増加してくる見込み。ただ、天候次第で入荷量が増減するため、安定した入荷は見込めない。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並となる見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

2月28日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な	29年	3,228	430	453	430	414	高知 61%
	30年	2,778	465	491	462	444	福岡 18%
	元年	3,050	412	420	414	403	熊本 11%
	2年	3,056	447	465	454	432	佐賀 3%
	3年	3,164	404	416	403	395	栃木 2%
	5ヵ年平均	3,055	431	448	432	417	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
4年見通し	3,100	410	420	410	400		
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>高知、福岡など西南暖地からの入荷が中心となる。各産地とも生育は概ね順調。日射量増加や気温上昇により樹勢は改善し、量も増えていく見込み。量の増加に伴い、相場は弱まるか。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並となる見込み。</p>						
ト	29年	6,750	372	368	378	371	熊本 35%
	30年	6,939	356	372	351	344	栃木 23%
	元年	5,965	409	407	411	409	愛知 11%
	2年	5,472	458	440	462	468	茨城 6%
	3年	6,294	353	354	354	352	千葉 4%
	5ヵ年平均	6,284	387	386	388	385	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
4年見通し	6,100	390	410	380	380		
マ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>熊本、栃木、愛知などからの入荷が中心となる。各産地とも生育良好も着色は遅め。気温上昇により改善し、増量していく見込み。熊本は黄化葉巻病の発生が多く、入荷量への影響が懸念される。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>						
ミ	29年	1,728	662	690	684	628	熊本 47%
	30年	1,966	600	651	592	562	愛知 16%
	元年	1,757	714	696	727	716	千葉 9%
	2年	1,741	755	787	794	713	宮崎 8%
	3年	1,963	606	634	625	569	静岡 6%
	5ヵ年平均	1,831	664	689	681	634	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
4年見通し	1,900	620	660	640	560		
マ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>熊本を中心に、愛知などからの入荷となる。各産地とも生育は概ね良好。一部にみられた小玉傾向は今後の気温上昇や日射量増加に伴い回復を見込む。着果は良好で潤沢な入荷が見込まれる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

2月15日現在

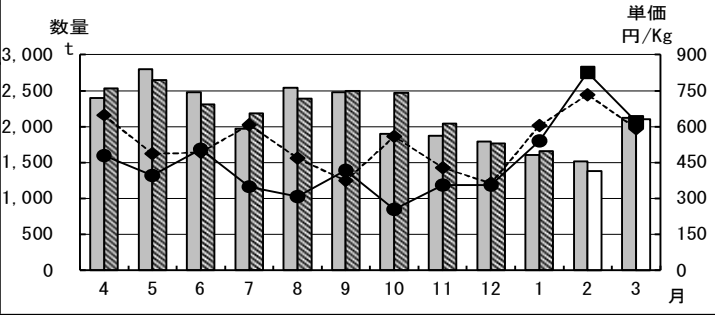
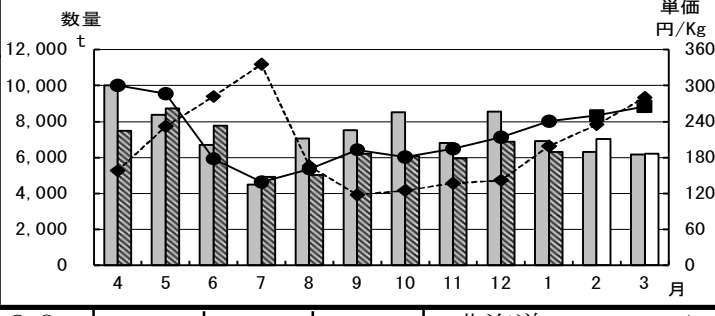
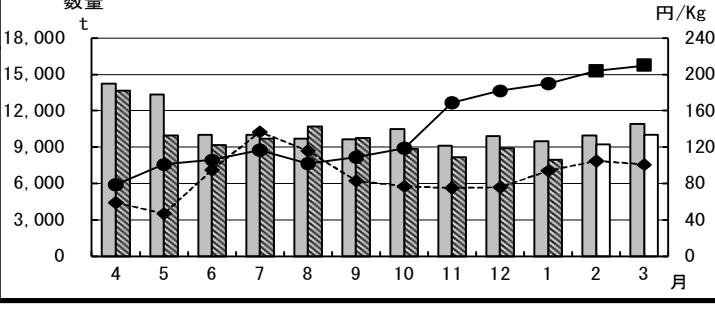
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ピーマン	29年	632	432	489	472	390	鹿児島 57%	
	30年	567	516	619	539	432	宮崎 29%	
	元年	415	611	606	630	549	高知 11%	
	2年	486	647	657	659	633	茨城 2%	
	3年	552	574	621	577	547	沖縄 1%	
	5ヵ年平均	530	547	593	567	501	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	4年見通し	530	580	600	580	550		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>鹿児島、宮崎、高知からほぼ全量を入荷する。上旬までは少なく、単価高で推移するが、中～下旬は入荷量が増量してくるため単価が下がる見通し。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。</p>							
	ばれいしょ	29年	2,833	232	242	241	222	鹿児島 64%
30年		3,017	127	139	132	113	北海道 36%	
元年		3,102	126	132	130	111		
2年		3,425	146	125	129	181		
3年		2,435	306	279	326	317		
5ヵ年平均		2,962	181	177	184	183	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
4年見通し		2,800	250	250	250	250		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
<p>鹿児島、北海道からほぼ全量を入荷する。鹿児島は生育良好で2L、L中心、下旬に入荷ピークを迎える見込み。北海道は計画出荷をしており、入荷は3月でほぼ終了の見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>								
たまねぎ		29年	6,805	100	100	108	98	北海道 83%
	30年	7,249	99	99	109	94	静岡 8%	
	元年	6,606	116	136	121	100	愛知 8%	
	2年	7,182	77	81	80	74	熊本 1%	
	3年	7,014	86	91	89	80		
	5ヵ年平均	6,971	95	101	101	89	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	4年見通し	4,800	180	180	180	180		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>北海道を中心に静岡、愛知などから入荷する。北海道からの入荷は少なく、L中心となる見込み。静岡、愛知は干ばつにより生育が遅れており、L、M中心の入荷予想。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

2月28日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	29年	2,126	468	490	484	443	茨城 37%
	30年	1,959	552	629	554	482	宮崎 37%
	元年	1,746	636	631	681	596	高知 15%
	2年	2,042	669	689	671	654	鹿児島 10%
	3年	2,126	592	637	595	552	沖縄 1%
	5ヵ年平均	2,000	581	614	594	544	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	4年見通し	2,100	620	700	640	520	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	茨城のほか、宮崎、高知など西南暖地からの入荷となる。各産地とも生育に問題はないものの、低温や暖房設定温度の下げにより肥大遅れがみられる。気温上昇に伴って増量し、入荷に不足はない見込み。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや上回る見込み。						
	白菜	29年	7,493	225	226	231	221
30年		7,767	112	120	112	103	鹿児島 40%
元年		7,235	114	120	115	107	長崎 1%
2年		9,239	126	107	120	148	
3年		6,163	280	269	286	286	
5ヵ年平均		7,579	165	162	166	168	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
4年見通し		6,200	265	270	265	260	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道、鹿児島からの入荷でほとんどを占める。貯蔵品出荷の北海道は不作の影響で残量少なく、入荷も少ない。入荷が本格化する鹿児島は生育順調で大玉傾向。絶対量は多くなく、高値基調が続く見込み。 入荷量は前年並となり、価格は高騰した前年をやや下回る見込み。							
たまねぎ		29年	12,197	129	122	129	134
	30年	11,078	126	124	129	127	静岡 11%
	元年	10,529	133	139	131	129	佐賀 10%
	2年	12,237	76	79	85	70	長崎 5%
	3年	10,923	101	106	104	93	中国 1%
	5ヵ年平均	11,393	112	113	115	110	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	4年見通し	9,800	210	230	210	190	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	北海道を中心に、静岡、佐賀などからの入荷となる。貯蔵から計画出荷の北海道は、不作と前進出荷の影響で前年より減らす。静岡は低温、干ばつによる遅れが解消し、量がまとまる見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。						

名古屋市中央卸売市場

2月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	29年	7,821	400	379	396	435	青森 27%
	30年	7,115	431	422	432	419	フィリピン 15%
	元年	7,715	423	401	411	443	愛媛 13%
	2年	7,083	427	406	421	421	熊本 10%
	3年	7,865	402	389	410	419	愛知 8%
	5ヵ年平均	7,520	416	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	4年見通し	7,200	420	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	いちご、りんご、かんきつなどが主な品目となる。りんごの入荷量が例年よりも少なく、小玉傾向となる見込み。いちごは生育順調で入荷量は前年並だが、価格は前年より低い見通し。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかやや上回る見込み。						
りんご	29年	1,764	283	290	279	277	青森 99%
	30年	1,449	334	337	330	340	秋田 1%
	元年	1,725	268	274	262	271	
	2年	1,572	351	340	355	360	
	3年	1,945	253	251	250	259	
	5ヵ年平均	1,691	294	295	292	298	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	4年見通し	1,500	330	330	330	330	
りんご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	青森が主産地となる。サンふじ、王林、ジョナゴールドの入荷が中心となる。いずれの品種も例年より入荷量が少ない。正品と下等品の価格差が大きくなる見込み。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。						
いちご	29年	1,050	1,163	1,158	1,191	1,150	愛知 57%
	30年	1,002	1,178	1,135	1,171	1,232	熊本 27%
	元年	889	1,389	1,488	1,456	1,261	鹿児島 6%
	2年	905	1,244	1,222	1,254	1,252	佐賀 2%
	3年	960	1,384	1,426	1,434	1,318	福岡 2%
	5ヵ年平均	961	1,267	1,280	1,296	1,240	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	4年見通し	950	1,300	1,300	1,300	1,300	
いちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知、熊本を中心に鹿児島などからも入荷する。各産地、2番果、3番果が安定して入荷する見込み。各産地の開花時期が揃うと数量は一気に増加する。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

2月28日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	29年	32,767	462	454	454	475	青森 24%
	30年	30,633	491	502	477	493	愛媛 15%
	元年	30,143	496	480	496	513	熊本 8%
	2年	29,211	512	484	500	498	栃木 7%
	3年	31,054	509	496	492	543	和歌山 7%
	5ヵ年平均	30,762	493	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	4年見通し	29,500	510	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	りんご、いちご、中晩柑類を中心に入荷する。中晩柑類は裏年の産地もあり入荷量は少なめ。メロン、すいかなどのハウスものも燃油高の影響等で少なめの入荷となる見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。						
りんご	29年	7,655	266	268	270	258	青森 98%
	30年	6,322	328	322	331	331	山形 1%
	元年	6,814	269	268	269	269	長野 1%
	2年	6,069	353	346	343	344	
	3年	7,533	260	261	260	258	
	5ヵ年平均	6,879	292	290	292	289	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	4年見通し	5,500	340	340	340	340	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	主に青森からの貯蔵品が入荷する。前年春期の凍霜害の影響で収穫量が少ないため、入荷量も少なくなる。品薄のため単価は高値で推移する見込み。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。						
いちご	29年	5,344	1,238	1,346	1,259	1,147	栃木 43%
	30年	5,252	1,209	1,209	1,207	1,212	福岡 18%
	元年	5,339	1,226	1,228	1,210	1,237	茨城 11%
	2年	5,102	1,335	1,438	1,359	1,239	静岡 10%
	3年	5,269	1,371	1,399	1,394	1,328	長崎 6%
	5ヵ年平均	5,261	1,275	1,323	1,285	1,232	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	4年見通し	5,200	1,350	1,400	1,350	1,300	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	栃木や茨城中心にとちおとめ、福岡からあまおうなどが入荷する。2番果のピーク過ぎ、3番果の入荷始まる。2番果と3番果の端境の谷は小さく、3月中下旬のピークに向け徐々に入荷量増やす見込み。 入荷量、価格ともに前年並となる見込み。						

切花・鉢花の3月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 2月28日現在）

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	29年	2,023	58	
		30年	1,960	56	
		元年	1,868	58	
		2年	1,871	47	
		3年	1,661	60	
5カ年平均		1,877	56		
4年見通し		1,650	60		
概要	愛知、沖縄、三重からの入荷となる。1週目の入荷量は少なめだが、彼岸に向けて増えてくる。下旬からは大きく減少する見込み。				
小 ぎ	実績	29年	2,367	35	
		30年	2,408	26	
		元年	1,820	33	
		2年	1,784	27	
		3年	1,854	37	
5カ年平均		2,047	32		
4年見通し		1,750	35		
概要	沖縄からの入荷となる。彼岸に向けて入荷量は増えてくるが、下旬以降は数量が減少する見込み。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	29年	1,499	46	
		30年	1,627	38	
		元年	1,445	46	
		2年	1,273	41	
		3年	1,295	52	
5カ年平均		1,428	44		
4年見通し		1,300	52		
概要	愛知、和歌山などから入荷する。彼岸等物日に向け増量していくが、2月にやや前進出荷となった分、彼岸需要の対応には不安が残る。輸入物も便のみだれや買付価格の上昇で多くは見込めない。				
か す み	実績	29年	242	81	
		30年	253	68	
		元年	230	77	
		2年	188	74	
		3年	216	93	
5カ年平均		226	78		
4年見通し		220	90		
概要	和歌山、高知、熊本からの入荷となる。2月は低温、日照不足の影響で入荷量は少なかったが、気温が緩めば増えてくる見込み。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	29年	368	168	
		30年	317	177	
		元年	275	193	
		2年	281	160	
		3年	269	188	
	5カ年平均		302	176	
	4年見通し		260	180	
概要	<p>オリエンタルは高知、宮崎、愛知、埼玉からの入荷となる。全体の作付けは減っているものの安定した入荷となりそう。鉄砲は高知、九州からの入荷となるが、全国的な作付け減少により多くない見込み。LAは埼玉、高知から安定した入荷が見込まれる。</p>				
洋	実績	29年	503	82	
		30年	443	85	
		元年	505	70	
		2年	425	75	
		3年	337	108	
	5カ年平均		443	83	
	4年見通し		350	100	
概要	<p>デンファレは昨年並の入荷見込みで需要期の11～14日に集中する。オンシジウムは天候不良が続いた影響から、入荷減。カトレアは徐々に増加、コショウランは輸入中心で輸送面に不安が残るが、横ばいの入荷が見込まれる。</p>				
ば	実績	29年	1,072	83	
		30年	898	82	
		元年	758	93	
		2年	670	83	
		3年	748	107	
	5カ年平均		829	89	
	4年見通し		750	100	
概要	<p>愛知、岐阜、三重、輸入品を中心に入荷する。燃油高の影響もあり、国内産は前半少ない見込みだが、輸入品に関しては堅調な入荷が見込まれる。卒業式等イベントの多い月であるため、高値で推移する見込み。</p>				
枝	実績	29年	1,812	52	
		30年	1,557	56	
		元年	1,538	56	
		2年	1,287	52	
		3年	1,509	64	
	5カ年平均		1,541	56	
	4年見通し		1,500	60	
概要	<p>例年より低温が長く続き、加温物の出が悪い。降雪も多く作業にも支障がでている。ミモザの日に向けた出荷が間に合わない産地も。コデマリは順調な入荷となっているが、桜などは遅れ気味。今後の気温上昇次第では一気にまとまった入荷となる可能性がある。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
カラ	実績	29年	6,743	306	
		30年	3,204	308	
		元年	1,141	476	
		2年	4,311	396	
		3年	4,375	420	
	ラ	5ヵ年平均	3,955	361	
		4年見通し	4,300	419	
	概要	<p>入荷量は前年並か。鉢サイズの割合も概ね変わらず、5号鉢中心の入荷となる。価格は入荷量の減少に伴い安定。大輪のピンク・黄色の引き合いが変わらず強い。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響で球根の価格や輸送コストが高騰し、販売価格が軒並み値上げとなる見込み。その場合は、注文が減となり、委託出荷が増えるようであれば価格は下落すると予想される。</p> <p>前年3月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉（41.3%）、2位千葉（32.7%）、3位長野（24.5%）となっている。</p>			
ファレノプシ	実績	29年	34,518	3,580	
		30年	30,161	3,643	
		元年	27,637	3,752	
		2年	30,545	3,094	
		3年	28,684	3,872	
	プシ	5ヵ年平均	30,309	3,581	
		4年見通し	28,500	3,896	
	概要	<p>入荷量は前年並の予想。前年は緊急事態宣言の解除により、冠婚葬祭、退職・就任等による人事異動の需要があり、単価は安定した。今年も、その状況であれば単価は昨年並に安定する予想。</p> <p>前年3月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（56.4%）、2位宮崎（7.5%）、3位静岡（5.2%）となっている。</p>			
バラ及びミニバラ	実績	29年	67,441	196	
		30年	64,216	187	
		元年	60,318	193	
		2年	63,425	178	
		3年	69,459	197	
	ミニ	5ヵ年平均	64,972	190	
		4年見通し	69,000	198	
	概要	<p>入荷量は前年並か。3.5号～4号中心で3月前半は引き合いが強くなる見込みだが、つぼみが多いと苦戦が予想されるので咲かせた状態での出荷を希望したい。</p> <p>前年3月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（61.1%）、2位岐阜（34.5%）、3位愛媛（3.3%）となっている。</p>			

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
サイネリア	実績	29年	85,668	201	
		30年	80,739	218	
		元年	66,241	217	
		2年	60,559	210	
		3年	56,677	273	
	5ヵ年平均		69,977	221	
	4年見通し		56,000	275	
概要	<p>入荷量はほぼ前年並か。3月中旬頃のピークに向けて引き合いは強くなると予想されるが、コロナ等の状況により変わってくる見込み。下旬へ向けて品薄状態になると思われる。</p> <p>前年3月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(34.5%)、2位香川(12.5%)、3位奈良(11.1%)となっている。</p>				
マーガレット	実績	29年	91,370	181	
		30年	103,451	174	
		元年	76,241	199	
		2年	74,918	192	
		3年	95,082	220	
	5ヵ年平均		88,212	193	
	4年見通し		90,000	232	
概要	<p>入荷量は前年よりやや減か。鉢サイズは、3.5号ポット・4号鉢中心となる。価格面では5号鉢以上が厳しく、主要サイズが安定するため大幅な変動はないと予想。ここ数年、色変わりの品種や丁子咲き・ポンポン咲きなどの変わり咲き栄養系品種の人気の高い。</p> <p>前年3月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(23.0%)、2位愛知(21.2%)、3位静岡(17.7%)となっている。</p>				
デンドロビウム	実績	29年	27,041	629	
		30年	25,890	563	
		元年	22,345	587	
		2年	20,048	512	
		3年	16,362	643	
	5ヵ年平均		22,337	586	
	4年見通し		15,500	677	
概要	<p>全体に作付け減少傾向にあるため、特に7号以上の大きい物は入荷減となる見込み。4~6号中心の入荷になるが、全体に苦戦する見込み。</p> <p>前年3月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(51.8%)、2位岡山(22.5%)、3位高知(16.7%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.585
2022年3月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434